

展 示 品 目 録

	タイトル	年	内 容
ブ ー ム 前	わかんさんさいずえ 和漢三才図会	文政7(1824)	寺島良安著。正徳3(1713)年頃刊行。105巻81冊から成る、江戸時代の挿絵入り百科事典。各項目に図を示し、漢名・和名を掲げ、本文は漢文で解説されている。巻96「蔓草」の牽牛子の項に朝顔の花の色についての記述がある。
	さいやくしき 採葉使記	[序]宝暦8(1758)	阿部照任・松井重康撰、後藤梨春補、高大醇編。葉草採集のため諸国を巡回した採葉使の口述記録をまとめたもの。備州之部に「備中ノ松山ト云所ニ此コロ珍シキ牽牛花ヲ生シ……花ノ色白キト紺ト咲分ケ或ハ白地ニ紺ノ細カナル星入り……ソノ年ノ子ニテ又生ジ花咲ク近頃京師ニテ松山アサガホト云」とある。
	ぶつるいひんしつ 物類品鑑	宝暦13(1763)	平賀国倫[源内]著、田村善之等校。薬品会の出品物解説書で、全6巻から成る。本草学者としての平賀源内の代表的著作である。牽牛子の項に「黑白江南花和名シボリアサガオ」の記述がある。
	ほんぞうこうもくけいもう 本草綱目啓蒙	文化2(1805)	享和3(1803)年刊行。小野蘭山口述、小野職孝・岡村春益編。本草学者小野蘭山による「本草綱目」(李白珍著)の講義を記録・編集したもの。全48巻から成る日本最大の本草学書である。牽牛子の項に「碧白相間ル者ヲ黑白江南花ト云俗ニマツヤマアサガホト云」と記述。
第 1 次 ブ ー ム	かだんあさがおつう 花壇朝顔通	文化12(1815)	壺天堂主人著、森春溪画。大阪で最初に発行された朝顔図譜集。乾坤2冊から成る。それぞれの図に花名と和歌・俳句を付してある。
	あさがおそう 朝顔叢	[序]文化13(1816)	四時菴形影著。江戸で最初に発行された朝顔図譜集。上下2冊から成る(当館は上巻のみ所蔵)。多数の彩色図の中には、現在では失われた黄色い朝顔や、「巻絹」と呼ばれる変化種も見られる。序文は狂歌師大田南畝(杏花園、蜀山人)によるもの。
	あさがおみずかがみ 朝顔水鏡 前編	明治35(1902)再刊	横長・小型の手帖タイプ。秋水茶寮瘦菊著。文政元年(1818)に発行された同名本を、三省堂が復刻したもの。原本は江戸時代に発行された唯一の朝顔栽培のマニュアル本。花形と葉形の対照図など、具体的な栽培法について、図解入りで詳細に解説されている。前編のみ出版された。序文は森鷗外による伝記で知られる伊沢蘭軒である。
	ほんぞうず ふ 本草図譜	大正5-11(1916-22)復刻	岩崎灌園著。原本は文政11(1828)年刊行。日本初の植物図譜で、精密な植物図に解説を付し、1900種以上の草木が収録されている。自ら写生し彩色したものに加え、西洋の植物図の模写などを含む。23.蔓草部10.牽牛子 に朝顔の図がある。
第 2 次 ブ ー ム	あさがおはなあわせ 朝顔花併	[序]嘉永6(1853)	山内穠叢園撰。花併せに出品された品種目録。巻頭に彩色木版図あり。穠叢園は大阪で活躍した栽培家と思われ、『三都一朝』等には作者として「大阪 穠叢園」とある。
	さんといっちょう 三都一朝	嘉永7(1854)	朝顔図譜集。植木屋成田屋留次郎が刊行、田崎草雲画。多数の彩色木版図に、それぞれ花名・作者を記す。「三都」とは江戸・大阪・京都を指す。
	とひしゅうきょう 都鄙秋興	発行年不明	朝顔図譜集。原本「都鄙秋興」は安政4年(1857)、植木屋成田屋留次郎が刊行、野村文紹画。多数の彩色木版図に、それぞれ花名・作者を記す。本書は原本と「三都一朝」等を再編集して発行したものらしく、「三都一朝」と同一の図が多数含まれている。
第 3 次 ブ ー ム	あさがおがほう 朝顔畫報	明治34(1901)	明治34(1901)創刊の有料月刊誌。上林松寿編の朝顔雑誌。当館では2巻1-4号を所蔵。各地の朝顔同好者から掲載原稿を募り、朝顔会開催の情報や栽培に関する記事等を掲載した。
	あさかほ穠久会雑誌	明治33(1900)~45(1912)	当館では1-26號を所蔵。あさかほ穠久会の会報。あさかほ穠久会は、東京で初めて誕生した変化朝顔の同好会。各号の巻頭にカラーと白黒の図版数枚を所収。
	あさかほ錦之露	明治35(1902)	横長・小型の手帖タイプ。岡不崩著。花の色についてカラーで図示した書。後半は色見本を掲載。色彩や色の名称についての考察もある。限定250部の発行。
	あさかほ手引草(上・下)	明治35(1902)	横長・小型の手帖タイプ。岡不崩著。栽培法を図入りで解説したマニュアル本。双葉・葉形・花形を図示し対応関係を記す。双葉の図譜としてはこれが初。